

とめNNだより

令和5年11月発行

第33号



「とめNNだより」は、農業農村整備部(通称NN部)の広報広聴活動の一環として、登米管内の農業農村整備事業に関連する活動を広くお知らせする目的で、年4回発行を予定しております。掲載内容についてお問い合わせ等ありましたら、管理調整班までご連絡ください。

【東部地方振興事務所登米地域事務所農業農村整備部広報広聴委員会】

Lineup

内容	ページ
農業農村体験学習会が開催されました。	1
令和5年度みやぎ出前講座「田んぼの学校」を開催しました。	2
令和5年度多面的機能支払に係る活動支援研修会が開催されました。	3
現場見学会を実施しました。	3
災害時の応援体制等に関する協定が締結されました。	4
令和5年度「沼崎・大平地区区画整理(1)工事」が始まりました！	4

農業農村体験学習会が開催されました。

登米市立北方小学校5年生の総合学習の一環として、令和5年8月30日に迫川沿岸土地改良区職員が講師となり農業農村体験学習会が開催されました。

自分たちが住む地域に広がる田んぼに、どこから用水が流れて田んぼを潤し、その後どこに流れていくのか、田んぼや農業水利施設の多面的な役割、ため池をはじめとする農業用施設の危険性について説明が行われました。また、用水源となる長沼、迫川の水質調査が行われ季節毎の水質の変化について学ぶことが出来ました。

子供たちにとって、自分たちが住む地域に身近に存在する水路や流れる水、それを管理する土地改良区の仕事について知る良いきっかけになったのではないのでしょうか。



▲学習会の様子



▲水質調査の様子

令和5年度みやぎ出前講座「田んぼの学校」を開催しました。

登米市立東郷小学校からの申し込みを受け、令和5年7月5日に学校近くの農業用水路でみやぎ出前講座「田んぼの学校」を開催しました。本活動は、自分たちの住む農村や田んぼが持つ役割を理解してもらうことを目的に、5年生25人を対象として実施しました。本活動については、登米地域事務所農業農村整備部職員に加え、迫川沿岸土地改良区職員と地域の環境を守る「裏大岳ふる里守り隊」の皆さんに御協力いただきました。

生き物調査前に、子供たちへ田んぼの役割についての講義を行いました。田んぼの役割では、田んぼと生き物の住処の関係性のほか、洪水防止機能や美しい景観の維持等田んぼの多種多様な機能について、資料を活用して子供たちに説明しました。

生き物調査では事前に設置した仕掛けも含め、ザリガニやドジョウ、フナ等の生き物を採取、観察することができました。子供たちは意欲的に水路の生き物とふれあい、楽しく調査をしている様子でした。



▲講義の様子



▲生き物調査の様子

また、水質調査では、農業用水路の水を使ってpH、CODを計測し、農業用水路の水が生き物にとって住みやすい環境なのかどうかを子供たちに調べてもらいました。子供たちは、スタッフの説明を終始興味深い様子で聞いており、とても有意義な学習の場となりました。

本活動を終えて子供たちから、「田んぼの様々な役割について知ることができて、とても勉強になった」「この活動を通して生き物が少し好きになった」などの感想をいただきました。当部ではこれからも、「田んぼの学校」の活動を継続し子供たちの農業、農村に関する学習を支援していきます。



▲水質調査の様子



▲調査後の生き物を水路へリリースしている様子

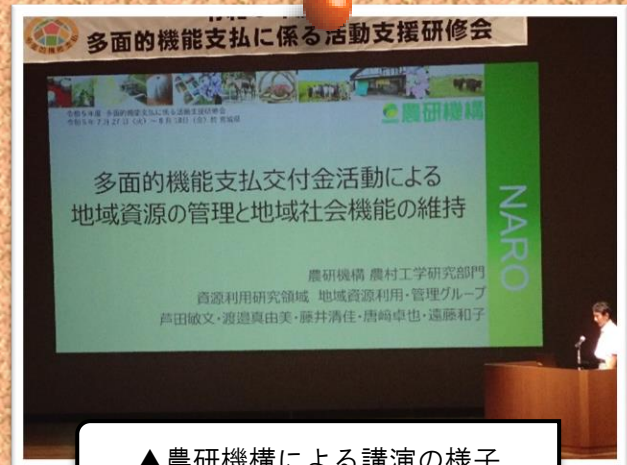
令和5年度多面的機能支払に係る活動支援研修会が開催されました。

令和5年7月25日に登米祝祭劇にて、宮城県多面的機能支払推進協議会主催の「令和5年度多面的機能支払に係る活動支援研修会」が開催され、登米管内の多面的機能支払活動組織や土地改良区から294名が参加しました。

当日は、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構より講演があり、多面的機能支払交付金活動は地域資源の管理と地域社会活動の維持に重要であることや、活動を継続するため既存の地域組織との連携や土地改良区等外部支援の必要性について話がありました。また、宮城県農政部農山漁村なりわい課と多面的機能支払推進協議会から、令和5年度の多面的機能支払交付制度の改正点や事務手続きに係る留意事項の説明があり、交付金の適正な執行について確認できました。



▲研修会参加者



▲農研機構による講演の様子

現場見学会を実施しました。

近年、短時間豪雨や長雨による局地的被害が多発していることから、職員が地域の地理特性や治水の歴史とその現状について学ぶため、登米地域事務所農業農村整備部の部内研修の一環として、令和5年10月25日に現場見学会を実施しました。

本見学会では、登米管内の主な用水源と流域治水を担っている迫川上流域の施設を見学しました。栗駒山麓ジオパークや荒砥沢ダムでは、平成20年岩手・宮城内陸地震をはじめとした自然災害による被害とその後の防災・減災対策について、栗駒ダムでは栗駒ダムが担う災害防止や用水供給といった役割について説明を受けました。

今回の現場見学会を通じ、地域特性を理解したうえで、より身近になった自然災害に対してどのように備えて行けばよいか考える、良い機会となりました。



▲荒砥沢地すべりの説明を受けている様子



▲栗駒ダムについて説明を受けている様子

災害時の応援体制等に関する協定が締結されました。

令和5年9月20日、迫川沿岸土地改良区と旧町単位で組織する建設業協会による「災害時における応援体制等に関する協定」の調印式が行われました。

迫川沿岸土地改良区では多数の農業用水利施設を管理しており、特に排水施設に関しては農地のみならず地域全体の生活に影響する施設にもなっています。

今回の、地元根ざした企業との協定締結により、近年多発する災害時における応急的な復旧や被害拡大防止対策等の、より迅速な対応が期待されます。危機管理における体制強化につながる重要な協定を締結することができました。



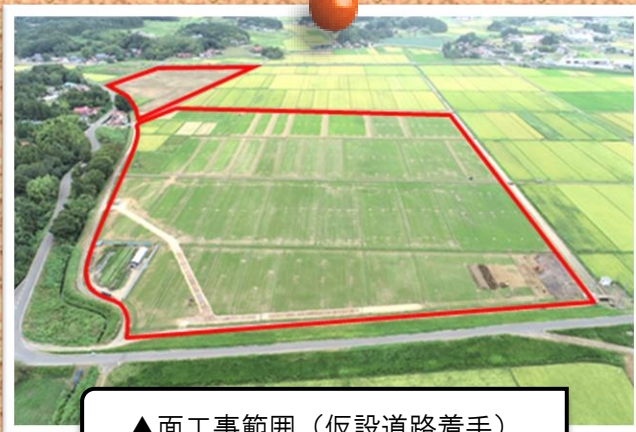
▲調印式の様子

令和5年度「沼崎・大平地区区画整理(1)工事」が始まりました！

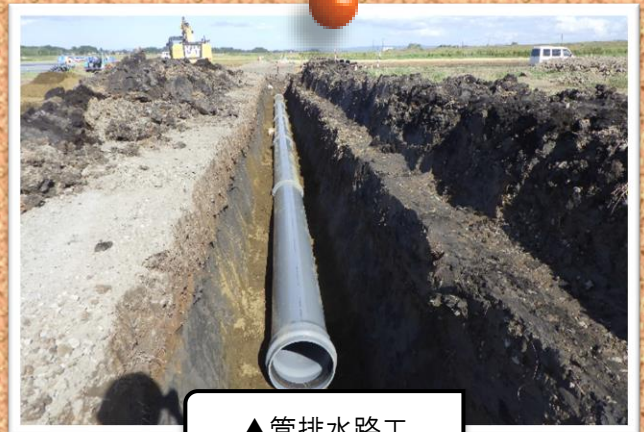
登米市南方町の蕪栗沼北部に位置する沼崎・大平地区は、令和3年度に地区採択され今年度から農地整備工事が始まりました。本工事では、地区全体面積の約53haのうち約15haの面整備を実施する計画です。

本地区は、昭和40年代中盤の農業構造改善事業により10～20a区画に整備されているものの、用排水路はほとんどが土水路で水路底が浅いため排水不良箇所が多く、農道も狭小であり、近代的農業経営に大きな支障を来している状況です。よって、本工事により、用排施設の整備と新たな標準区画(2ha区画)を導入し、農地の利用集積、水田の高度利用等により生産性向上に取り組み、高収益作物の導入と生産拡大を図ることとしています。

今後、順次面整備を進め、令和9年度の事業完了に向けて揚水機場及び暗渠排水の整備も実施してまいります。



▲面工事範囲(仮設道路着手)



▲管排水路工

宮城県東部地方振興事務所登米地域事務所農業農村整備部 広報広聴委員会(編集:管理調整班)



〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼西佐沼 150-5
 Tel: 0220-22-5169 Fax: 0220-22-6015
 E-mail: et-tmnbkt@pref.miyagi.lg.jp
 URL: <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-ns/>

こちらからも
アクセス出来ます!!

